

地方財政を見る目を養おう 「ゆでガエル」にならないために

私たちのリーダーを選ぶ
ハンドブック



このままでは「ゆでガエル」？ 地方財政の抱える二つの爆弾

- ①これまでの負債を抱えたまま、さらに赤字を出し続けて財政破綻をする可能性がある。
- ②少子高齢社会とは現役世代が減少し、高齢者が増加する社会。福祉への支出が急増して財政破綻する可能性が大きい。

あなたも自治体の財政を考えましょう！

夕張市破綻は全国共通の課題

国からの補助金漬け

第三セクターの失敗

財政の粉飾決算

複雑な財政の
システム

議会、住民の行政への監視不足

どこの市区
町村でもよく
あること

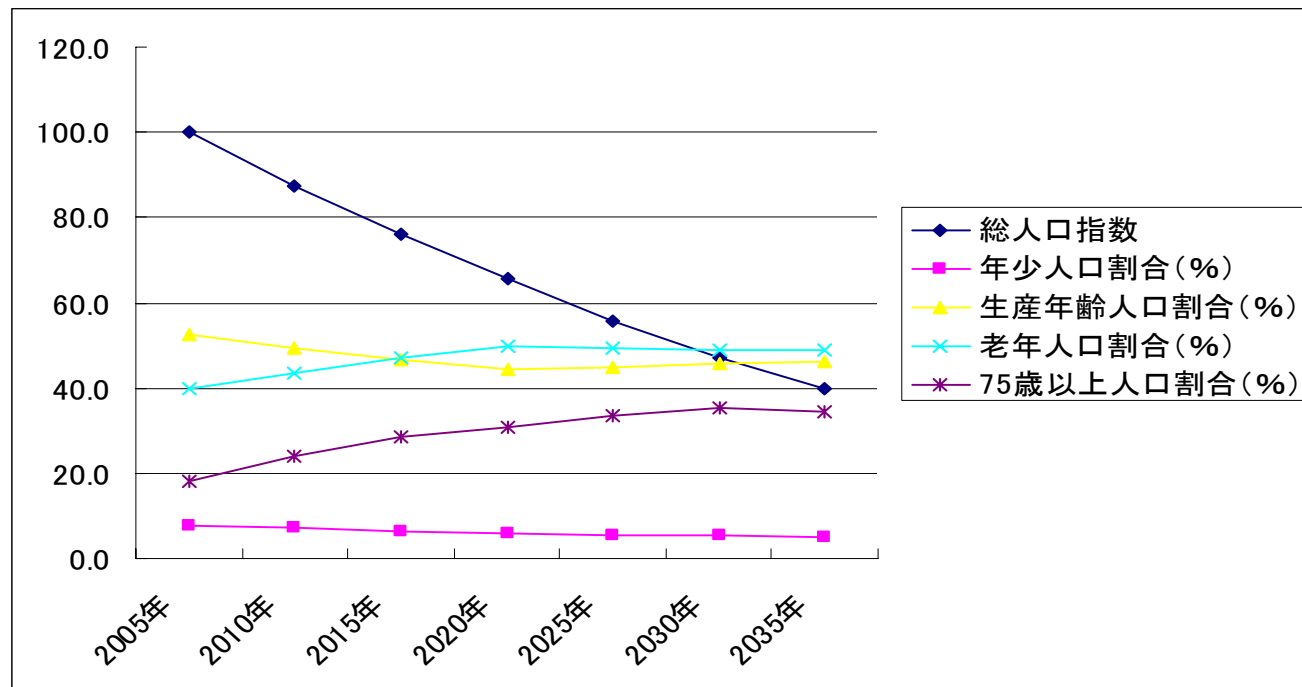
破綻

夕張市破綻後の生活

- 高齢者人口の割合の急増＝現役世代の激減
- 負担増と行政サービスの激減

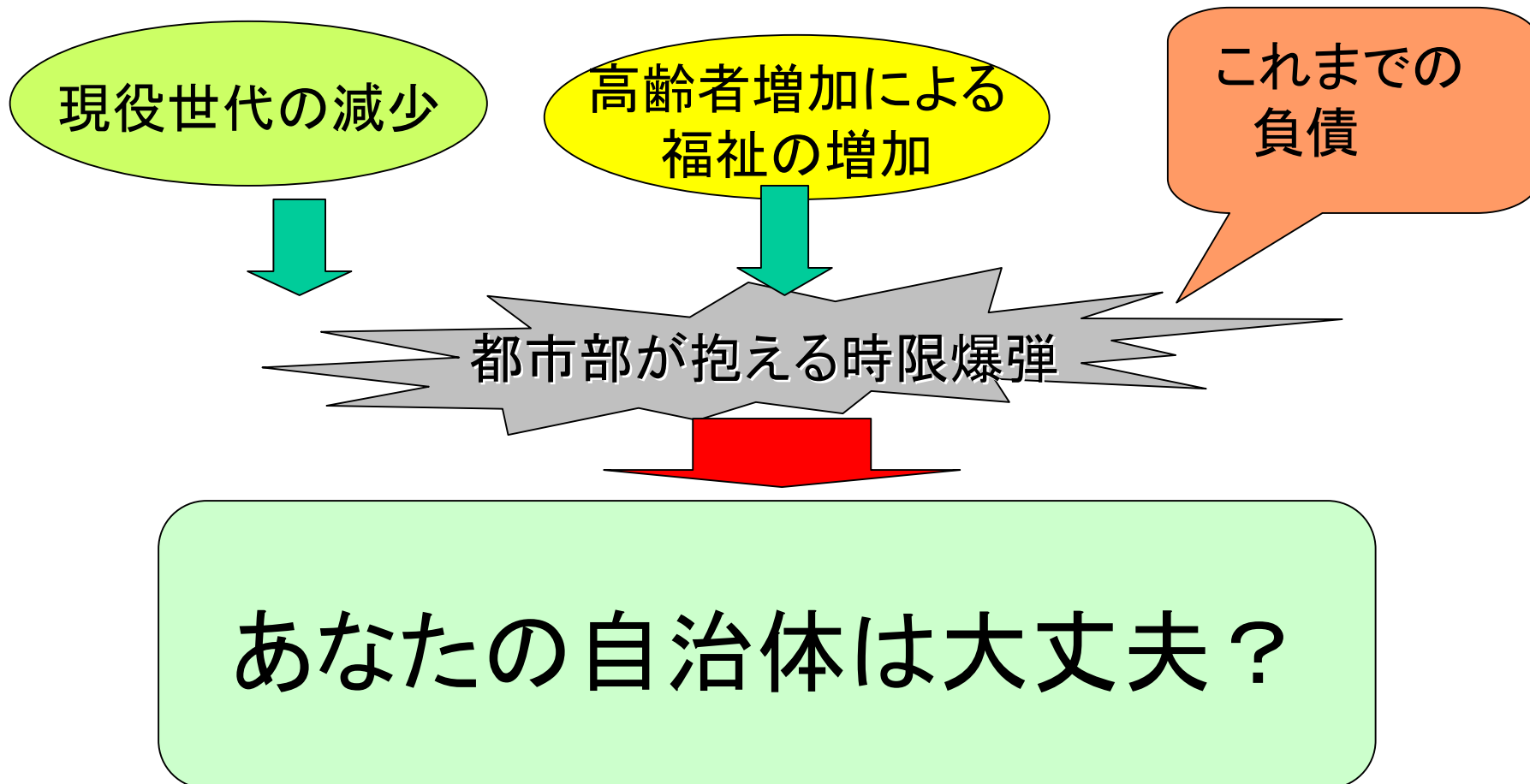
例 道路を補修できない、雪かきできないなど

夕張市の将来人口推計の割合



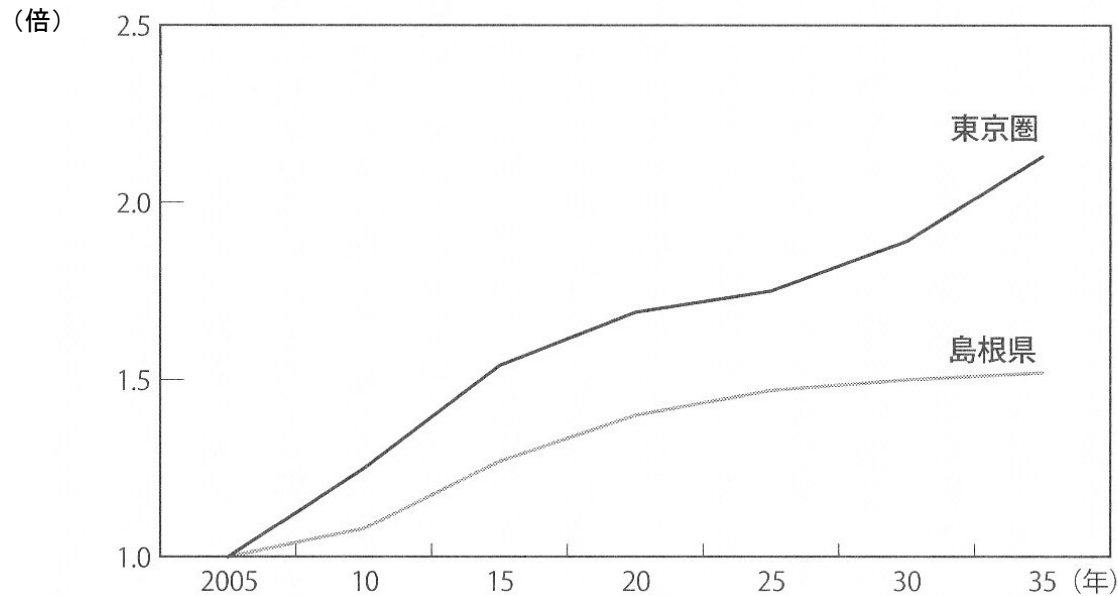
少子高齢社会と自治体の負担

- 団塊世代が年金受給者へ。生産年齢人口一気に減少！
- これまでの負債も抱えたままであなたの自治体は大丈夫？



少子高齢社会の本当の怖さ

第1-3図 | 東京圏と島根県の財政状況の見通し



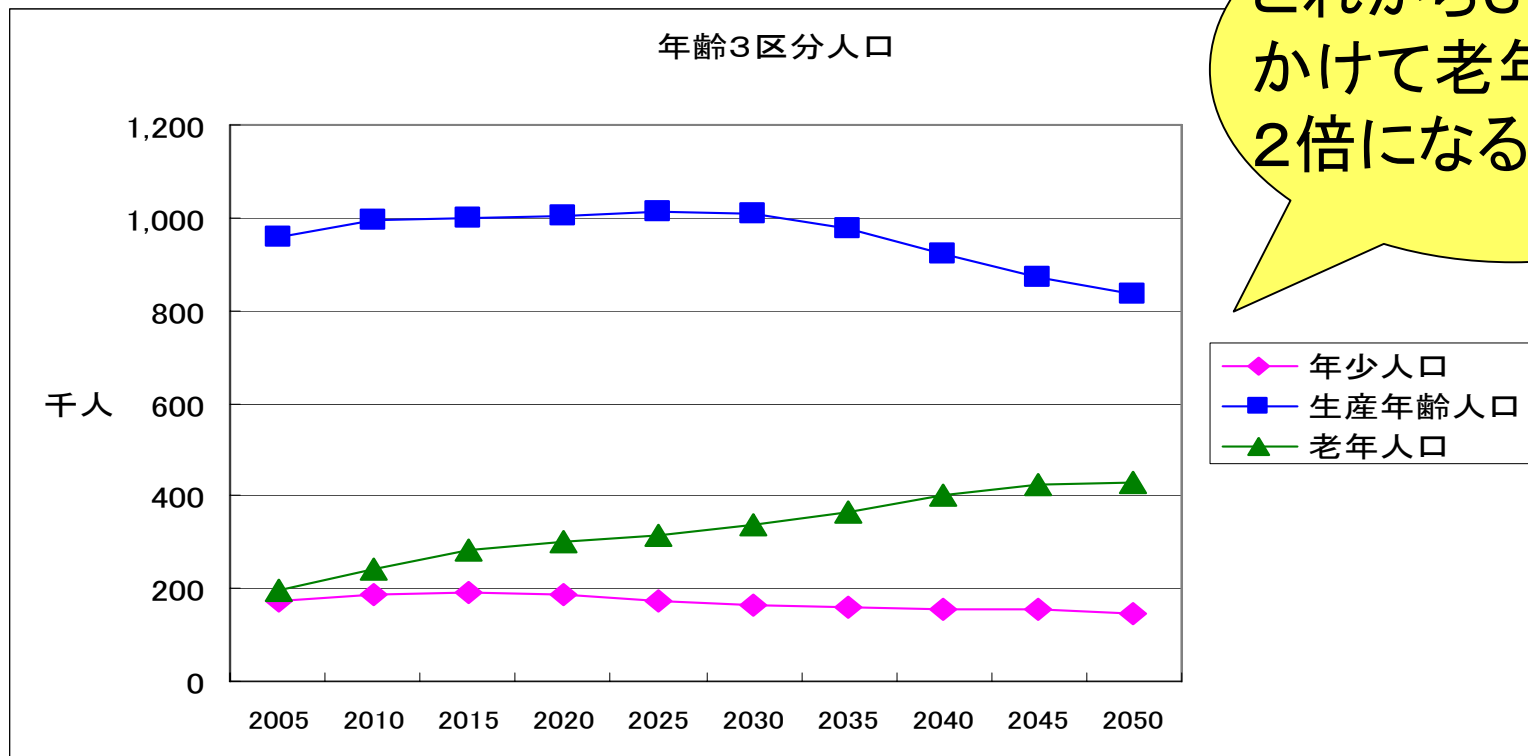
(注) 国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口 (平成 19 年)」より筆者算定

東京圏はこれから
財政負担が
今までの
2倍以上に
増える見通し

松谷明彦『人口減少時代の大都市経済』東洋経済新報社より

「川崎市の将来人口推計」より

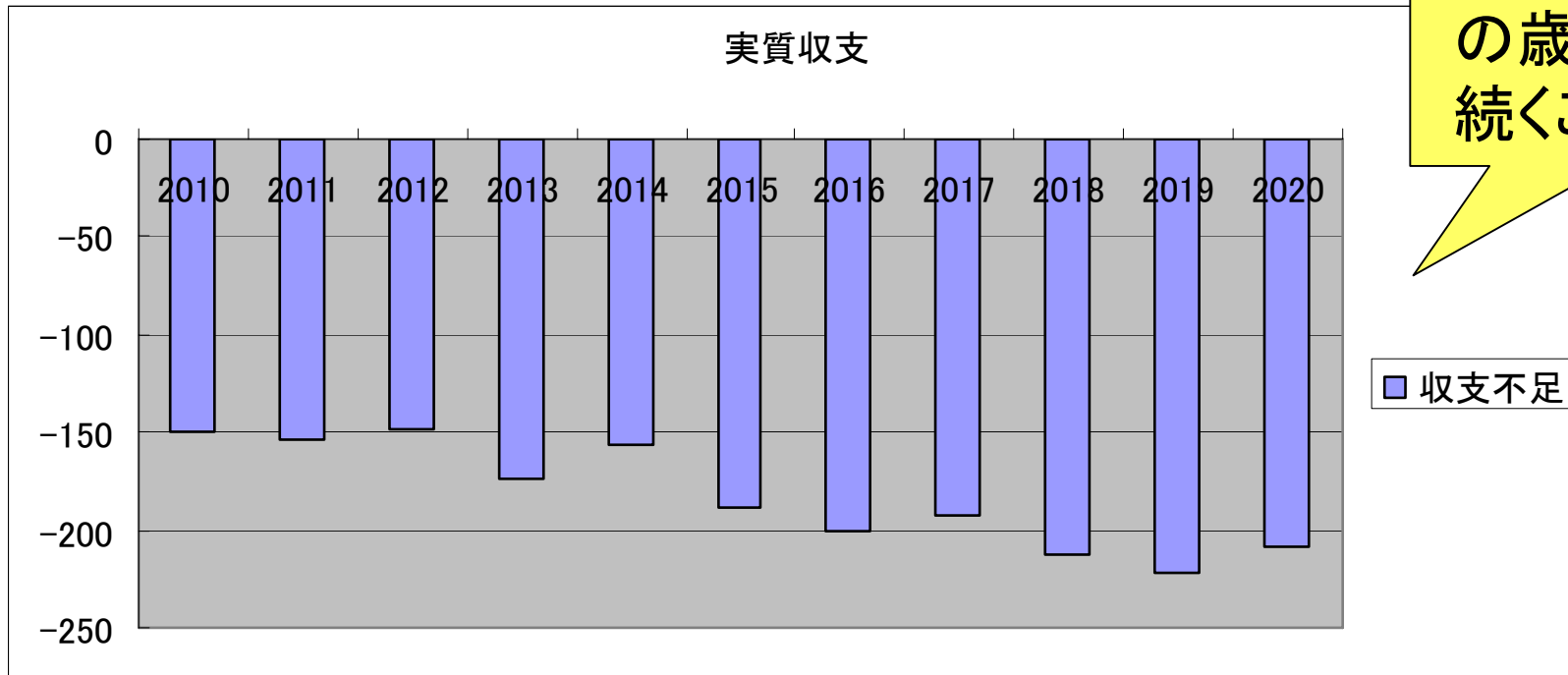
「人口が増える都市部」という思い込み 人口増えても現役世代は急減



これから30年
かけて老年人口が
2倍になる見通し。

人口増でも財政は赤字でジリ貧

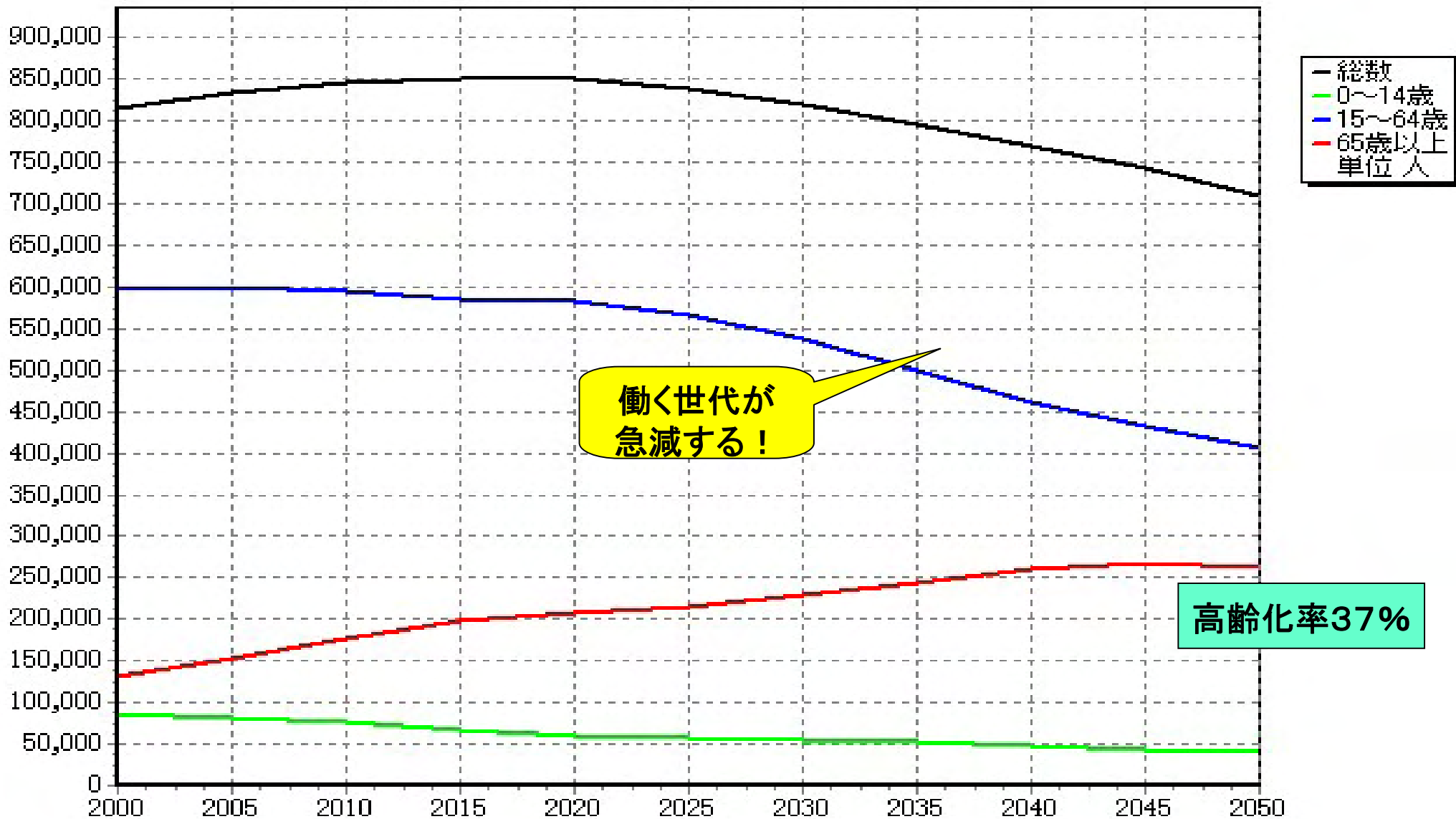
「川崎市実質収支の将来予測」より



このままでは
200億円前後
の歳入不足が
続くことに

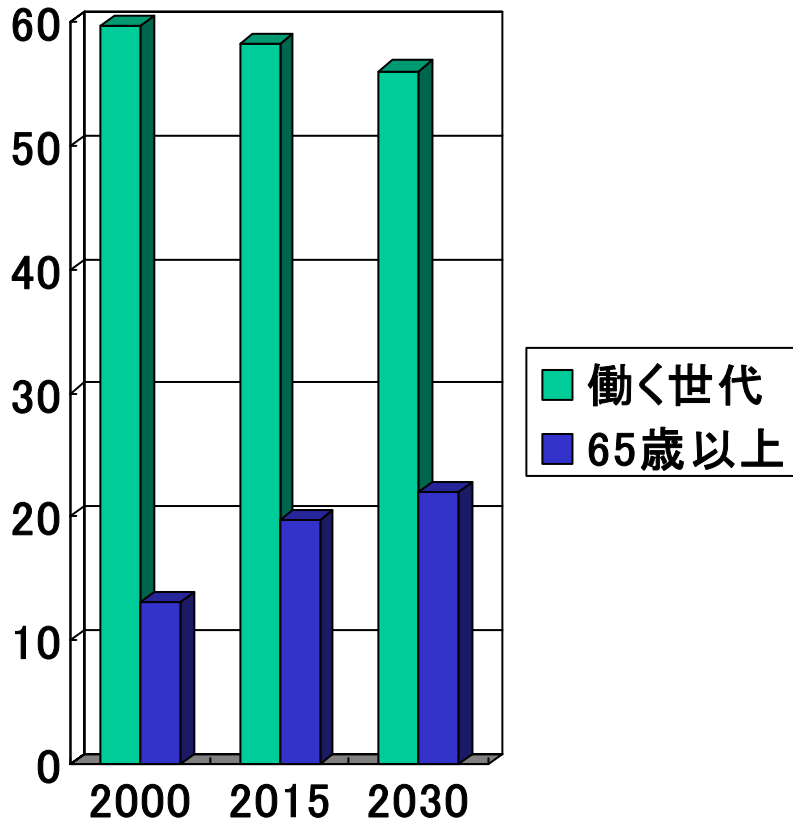
世田谷区の将来人口推計でも現役世代は減少

総人口および年齢3区分別人口の将来の年次推計：世田谷区



世田谷区の高齢者負担は急増する

2030年前後まで、急激に高齢化(人口問題研究所15年12月推計値)



1. 65歳以上の推移

13.0万人 → 19.7万人 → 22万人
(16.0%) (22.8%) (25.8%)

注:世田谷区基本計画では2014年では、19.5%と推計。

2. 世田谷区の負担増の例

(平成14年度と18年度の比較)

○介護保険拠出金

43億円 → 59億円 (37%アップ)

○国民健康保険拠出金

66億円 → 77億円 (16%アップ)

・高齢化率の推移は、15.5% → 17.0%

○他にも、高齢化が進むと障害者予算が増加

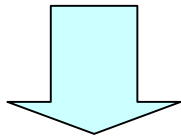
地方財政

本当の収支は誰にもわからない

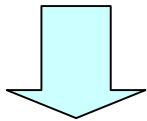
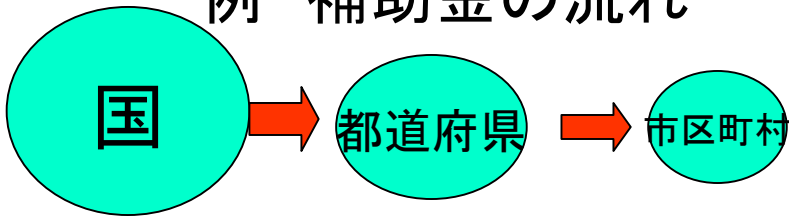
複雑な財政の制度



制度を使いこなすのは
自治体の職員のみ



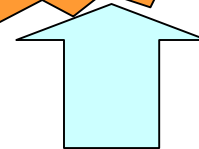
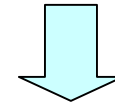
例 補助金の流れ



専門家しかわからない



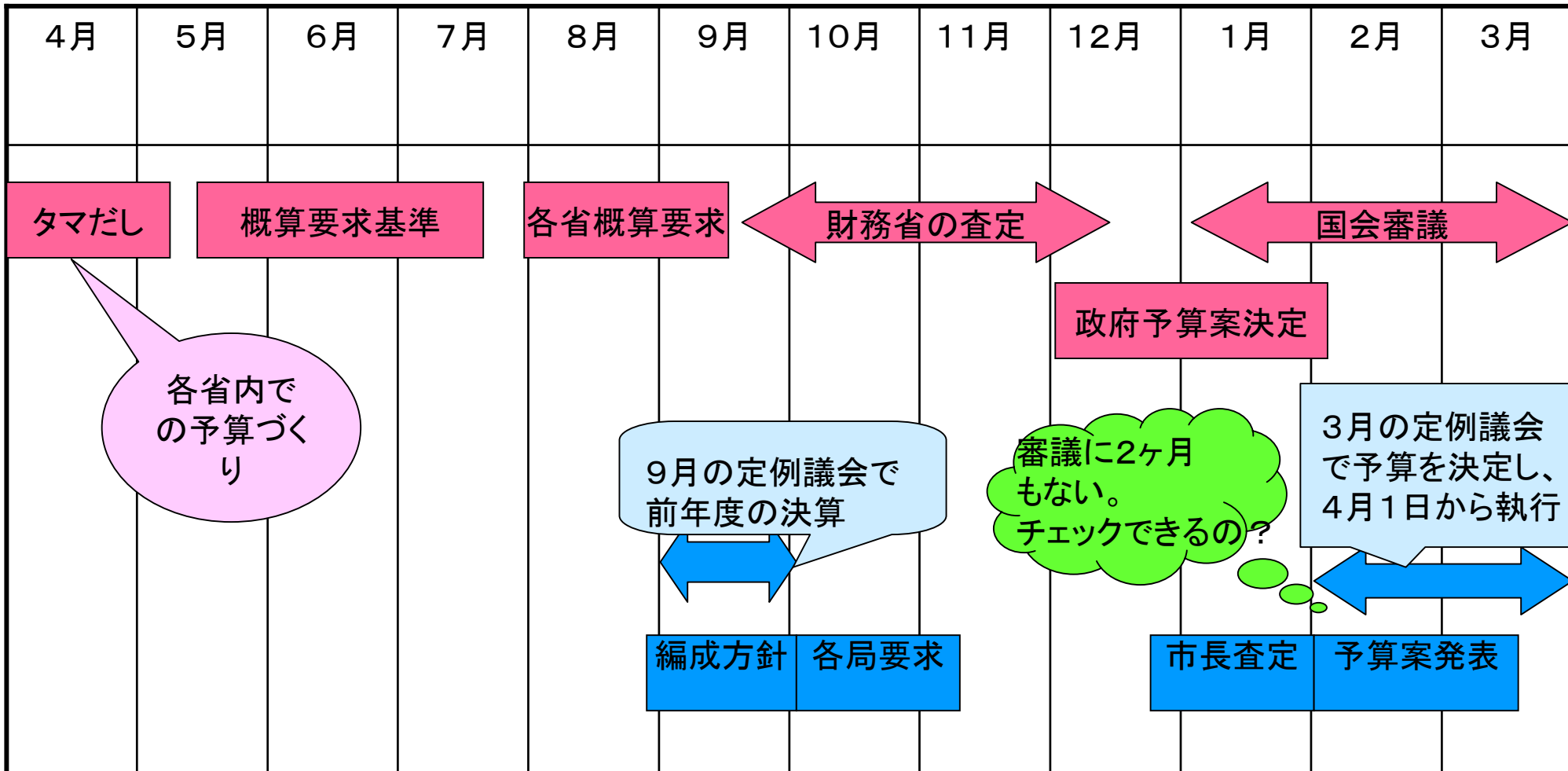
チェックできる人がほと
んどいない



予算を2ヶ月で決めている

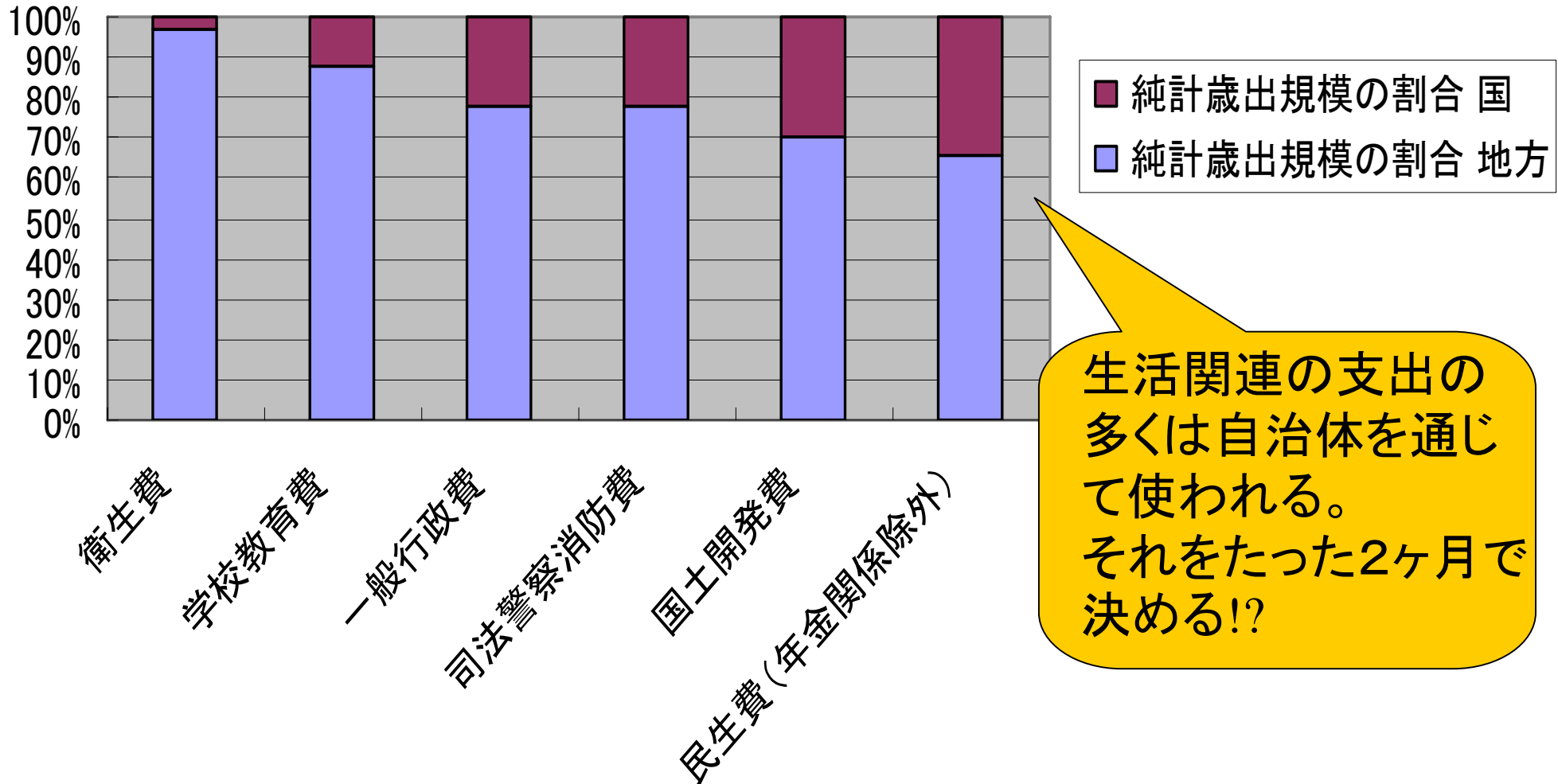


国と川崎市の大まかな予算編成スケジュール



国の支出も実際には地方で使われる

『地方財政白書ビジュアル版平成22年度版』より



選択を問われる分かれ道

- ・現役世代の急激な減少と高齢者の増加は税収の減収と支出の増加。
- ・負債は国だけでなく地方でも積み上がっている。これ以上の借金は続けられない。

この先どうするか、自治体運営へのあなたの選択と参加が問われる。

2011年統一地方選は
破綻回避のラストチャンス



選択に意思をのせて

- ・議会には地域の経営ができるリーダーを送り込むこと。
- ・あれか、これかを決断できる人であること。
- ・議会や行政への市民参加を促し、自らの活動を見える化すること。
- ・市民とともに地域の問題を政策化して解決できる人。
- ・住民、自治体職員の意識改革ができる人。

参加するには？

- ・地域の活動にかかわる。
- ・自分たちの町の事業や財政を理解できる「事業仕分け」をやる。
- ・仲間をつくり住民参加で自分たちの町の税収が増える政策を考える。
- ・選挙中には気になる候補者を探す、話を聞く、マニフェストを読む。